

平成 28 年度 大学院人文科学府 博士後期課程 第 2 期入学試験問題  
(日本語)

解答は、解答用紙に書くこと。その際、「問 1 - 1」などと記し、どの問いに対する解答かを明示すること。

**問 1.** 次の文章を読んで、後の問いに日本語で答えなさい。

ある留学生から、(A)大家さんのおばさんはとてもよくしてくれるのだけれど、外出時に顔をあわせるたびに「あら、(1)」と聞かれ、行き先をチェックされるのが嫌だ、と相談されました。

「(2)」「(3)」これは日本語ではよくあるやりとりです。「(4)」は行き先についての質問というより、相手への関心を表す言葉と言えます。ですから、「(5)」のような、具体的な情報がない答えでもかまわないのです。大家さんの言葉は「(6)」と同じような挨拶(あいさつ)だから、行き先をはっきり言わなくても大丈夫だというと、留学生も納得していました。

仕事の打ち合わせをしたり、授業を聞いたり、レストランで注文をしたり、私たちは言葉をやり取りすることで必要な情報を伝えます。それと同時に、人間関係を作るためにも言葉を使います。挨拶は、まさに関係作りのための言葉と言えます。

良好な関係作りのためにどのような言葉のやり取りをするかは、文化によって違いがあります。「いいお天気ですね」など、日本人は挨拶がわりに天気をよく(B)話題にしますが、中国や韓国では「ご飯を食べましたか」が挨拶になります。初対面の相手と話すときに、例えば年齢や出身地を話題にするかなど、どんな話題が適切かといったこともさまざまです。

また、決まった表現をよく使うか、その時々で違った言い方をすることを好むかという違いもあります。「おはよう」の代わりに相手の服をほめたり、お茶を入れてくれた相手に「ありがとう」ではなく「今日何かいいことでもあった?」とちょっとした冗談など、ひと工夫した表現を使うことを好む言語文化の人々からは、日本語の(ア)が物足りなく感じられることもあるようです。

決まり文句に心を(C)込めるのでも、工夫を(D)凝らしたセリフで気持ちを伝えるのも、(イ)、言葉を(E)交わすことを大切にしていきたいものです。

(石井恵理子 国語研広報誌「国語研の窓」18号「暮らしに生きることば」より)

**問 1-1** 下線部 (A)-(E)のよみかたをひらがなで書きなさい。 (10 点)

**問 1-2** 次の表現の意味を簡単に説明しなさい。 (10 点)

- (a) 決まり文句
- (b) 顔をあわせる

**問 1-3** (1)から(6)のそれぞれには、「お出かけですか。どちらへ」「ええ、ちょっとそこまで」「いってらっしゃい」のいずれかが入る。文脈をよく考えながら、どれが入るかを考え、解答用紙に記入しなさい。 (30 点)

**問 1-4** 本文の趣旨に照らして(ア)に入る表現として適切なものを選びなさい。 (5 点)

- ①文語表現
- ②口語表現
- ③定型表現

**問 1-5** 本文の趣旨に照らして(イ)に入る表現として適切なものを選びなさい。 (5 点)

- ①相手に挨拶をするために
- ②相手に情報を正確に伝えるために
- ③相手と良い関係を築いていくために

**問 2.** 以下はある架空の留学生が指導教員と電子メールで研究上の相談をしている場面を抜粋したものである。この文章には日本語の誤用や不自然な表現、指導教員へのメールというフォーマルな文体としては不適切な表現などが含まれている。適切な表現に直したうえで、全文を解答用紙に書き入れなさい。 (40 点)

このメールで、少し私が先生とお話たいことを紹介したいですと思っておりますが、私は冬休みの前図書館に言って私が読むべきの本を注文しまして、本の3冊を借りさせていただきました。それに、インターネットで探しました。英語でも日本語でも書いてある文献を見つけました。英語での文献は私がやりたい研究の概した背景を説明するのに役立つと思いますが、日本語での文献が掘り下がった研究だと思います。確かに、日本語の文献をきちんと納得するまで時間がかかりますが、必ず自分のテーマを理解するため価値があると思うから頑張ります。